

## 教育セミナー15 『動物由来感染症』

11月28日(日) 13:30~15:00 (第5会場 6階・602会議室)

### 獣医療の現場から診たペットとヒトの感染症

兼島 孝 (みずほ台動物病院/琉球動物医療センター)

#### 【はじめに】

「動物から人にうつる病気」で、世の中は揺れている。輸入牛肉の国際問題まで発展した BSE (牛海綿状脳症)をはじめ、SARS (重症急性呼吸器症候群)、国内の養鶏場を震撼させている鳥インフルエンザなど経験し得ない疾患が次々に出現しているからである。ペット関係では 2002 年と 2005 年に鳥展示施設でオウム病が発生し、従業員や来園者に多数感染する事態が起こった。また、2006 年 11 月には 36 年ぶりに輸入狂犬病が発生し、2 名の感染者が死亡した。2008 年にはレンタル犬からのブルセラ症が問題となり世間の関心を引いた。国民は「動物」「感染症」というキーワードに敏感になり、身近な「ペットからの感染」にも気を配るようになった。

#### 【背景】

ペットを取り巻く環境は、この 10 年で大きく変わった。犬と云えば雑種で玄関先に繋がれ、猫は自由に出入りをしているイメージを持っていると推測するが、現実は大きく違う。2001 年には、純粋犬 (500 万頭) は雑種犬 (420 万頭) を上回り、さらに純粋犬 (2008 年: 990 万頭) は増え続け、雑種犬 (同年: 320 万頭) は減少の一途となった。また、犬猫の総数は年々増加し、2003 年には子どもの数 (1,801 万名) と犬猫の総数 (1,810 万頭) が逆転した。その差はさらに開き 2009 年には犬猫の総数は 2,400 万頭に届こうとしている。そして、多くの家庭において犬や猫は室内で飼育されるようになった。このようにペットとの接触頻度の上昇も「ペットからの感染症」を増加させる一因となった。

#### 【Zoonosis】

WHO によると『ヒトと脊椎動物の間を自然に行き来することができる感染症』と定義されている。農林水産省では「人獣 (畜) 共通感染症」と訳され、厚生労働省では「動物由来感染症」と訳されている。最近では「(ヒトと動物の) 共通感染症」と呼ばれることも多くなった。ヒトの感染症は約 1700 種類が報告され、半数の約 800 種が共通感染症である。その中で、日本国内で問題になるのは約 40 種類と報告されている。話題になっているいくつかの疾患を報告したい。

#### 【おわりに】

ヒト医療において共通感染症が発生したら、悲しいかな動物が悪者にされ、排除 (安楽死) される傾向にある。ペットが「コンパニアオン・アニマル (伴侶動物)」と呼ばれる昨今、感染源=動物=悪者の構図を変えるのは我々の努力以外にありえない。医学と緊密に連絡を取り合い、動物を排除しない、ヒトも動物も治療する体制を取りたいと切に願う。